

教育学研究科教員業績一覧

(2003年10月1日～2004年9月30日)

教育学コース

土方 苑子(教授)

<論文>

土方苑子「『府県学事年報』にみる小学校二類スル各種学校」(藤田英典他『教育学年報10 教育学の最前線』世織書房 2004年3月)

土方苑子・小林正泰「明治前・中期東京市街地における小学校の就学動態——親の職業とのかかわりで——」(『東京大学大学院教育学研究科教育学研究室紀要』30号 東京大学大学院教育学研究科教育学研究室 2004年6月)

川本 隆史(教授)

<論文>

・不良精神とコミットメント——藤田省三の倫理学をめぐる断想(『現代思想』32巻3号, 青土社, 231-237頁, 2004年2月)

・卓越・正義・租税——社会政策学の《編み直し》のために(社会政策学会編『新しい社会政策の構想——20世紀的前提を問う: 社会政策学会誌11号』, 法律文化社, 3-17頁, 2004年3月)

・ニーズを論じ合うことは, どんな人間のつながりを創り出すのか——公共性と倫理(安彦一恵・谷本光男編『公共性の哲学を学ぶ人のために』, 世界思想社, 39-54頁, 2004年8月)

・基調報告「都市の倫理——見知らぬ者たちの連帯を求めて」(『東北都市学会研究年報』第6巻, 東北都市学会, 4-15頁, 2004年9月)

<学会発表>

・ケアの倫理と制度——三人のフェミニストを真剣に受けとめること(日本法哲学会2003年度学術大会統一テーマ「ジェンダー, セクシュアリティと法」, 法政大学市ヶ谷キャンパス, 2003年11月21日)

・記憶のケアと記憶の共有——エノラ・ゲイ展示論争をめぐる(広島市立大学広島平和研究所主催=国際シンポジウム「エノラ・ゲイの閃光——戦争と破壊の象徴: 1945~2004」, 広島国際会議場, 2004年7月31日)

今井 康雄(助教授)

<著書>

『メディアの教育学——「教育」の再定義のために』東京大学出版会, 2004年6月(単著).

<論文>

“Zum Verhältnis von Neuen Medien und Pädagogik. Der Stand der japanischen Diskussion”, in: Gössmann, H./ Waldenberger, F. (Hrsg.): *Medien in Japan. Gesellschafts- und kulturwissenschaftliche Perspektive*, Hamburg: IFA 2003. 10, S. 153-166.

「教育学的メディア分析の可能性」『教育学年報』第10号, 2004年3月, 321-351頁.

“Die Idee des ‘Musters’ (Kata) und die ästhetische Konstruktion des Ich im japanischen Kontext”, in: Huber, J. (Hrsg.): *Ästhetik Erfahrung*, Wien/New York: Springer 2004. 5, S. 61-77.

「1945年以後の教育諸科学の展開」『研究室紀要』(東京大学大学院教育学研究科教育学研究室), 第30号, 2004年6月, 107-114頁.

<翻訳>

ヴルフ「歴史的教育人間学への転回」『研究室紀要』(東京大学大学院教育学研究科教育学研究室), 第30号, 2004年6月, 161-176頁.

<招待講演>

“Die Schwierigkeit der Selbstkonstruktion. Eine Bestandsaufnahme der japanischen Situation” (於: ビーレフェルト大学, 2004年5月11日)

“Bildung ohne Selbstreflexion. Zur ästhetischen Konstruktion des Ich im japanischen Kontext” (於: ベルリン自由大学, 2004年6月9日)

<その他>

書評: 田中智志『他者の喪失から感受へ——近代の教育装置を超えて』『教育哲学研究』第89号, 2004年5月, 152-158頁.

「研究討議に関する総括的報告」『教育哲学研究』第89号, 2004年5月, 19-23頁(矢野智司との共著).

西平 直(助教授)

<論文>

- 「人間形成における宗教性の問題—若い人たちとの話から」『教育』2003年11月, 18-25頁
- 「世阿弥の稽古論再考—『稚児の身体』と『型』の問題」『教育学年報』10号, 世織書房, 2004年, 395-417頁
- 「世阿弥の還相—還相における<他者>の問題」『思想』960号, 2004年4月, 167-186頁
- 「他者理解とその「成就」—世阿弥「離見の見」を手掛かりとして」『人間性心理学研究』第22巻第1号, 2004年8月, 105-114頁
- 「エリック・エリクソン—アイデンティティ論の射程」『大航海』No.51, 新書館, 2004年, 167-175頁
- 「元型・イマージュ・変容—「魂の学としての心理学」のために」『岩波講座・宗教10 宗教のゆくえ』岩波書店, 2004年, 135-159頁

<翻訳>

- E. H. エリクソン『青年ルター(2)』みすず書房, 2003年10月

吉長真子(助手)

<論文>

- 「戦後岩手の農村保健運動における乳幼児死亡問題と嬰兒籠——『岩手の保健』誌の分析から——」『東京大学大学院教育学研究科教育学研究室『研究室紀要』第30号, 2004年6月, 17~30頁。

浅見 洋(客員教授)

<共著>

- 分担執筆, 細見博志編『生と死を考える「死生学入門」』北國新聞出版局, 第1章第3節「現代における死のイメージ」, 2004年1月, 77-100頁

<研究論文>

- 水島かおり, 浅見洋, 金川克子, 天津栄子, 多田博生, 高道香織, 地域における高齢者ケアの課題—「死生観とケア公開研究会」を通して—, 石川看護雑誌第1巻, 2004年3月, 49-56頁

<報告>

- 浅見洋, 川勝平太(対談), 善と禅を学ぶ, 2003年10月, The 16th JAPAN TENT Report, 11-14頁
- 浅見洋, 日常生活と哲学, 点から線へ第45号(西田幾多郎記念哲学館), 2004年3月, 1-18頁
- 浅見洋, 金川克子, 天津栄子, 多田博生, 水島ゆかり, 高道香織, 高齢者の死生観とケアに関する研

究, 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター『事業報告書』第2号, 2004年7月, 29-33頁

<評伝>

- 浅見洋, 二人称の死と郷土の思想家たち(九) 瀕死体験で聖化した信仰と思想—昭和日本に生きた教父・逢坂元吉郎—, 北國文華第18号, 2003年12月, 171-184頁
- 浅見洋, 二人称の死と郷土の思想家たち(十) 近代日本に警鐘を鳴らし続けた言論人—在野の思想家・三宅雪嶺—, 北國文華第19号, 2004年3月, 252-265頁
- 浅見洋, 二人称の死と郷土の思想家たち(十一) 愛と理性の教育をめざして—明星学園・金沢女専の創始者・赤井米吉—, 北國文華第20号, 2004年6月, 193-205頁
- 浅見洋, 二人称の死と郷土の思想家たち(十二) キリスト教的愛と清貧の実践者—隠れた聖徒・長尾卷—, 北國文華第21号, 2004年9月, 177-188頁

<学会発表>

- 浅見洋, (シンポジウム「死生観とケア」発題)石川の看取りの現場から—地域で死を看取る人々に聞く—, 第11回北陸宗教文化学会, 金沢大学サテライトプラザ, 2004年7月

<講演>

- 浅見洋, 老いてますます・ふるさとの思想家たち, 2004年1月27日, いしかわ長寿大学(石川中央校), 石川県老人健康センター寿康苑
- 浅見洋, (ラジオ講演)西田幾多郎の俳句から, NHKラジオ第2放送「宗教の時間」, 2004年1月25日, 2月1日(再放送)
- 浅見洋, 西田哲学と芸術, 2004年5月22日, 石川県民大学西田幾多郎講座, 石川県西田幾多郎記念哲学館
- 浅見洋, 西田哲学から教育現場へ, 2004年7月30日, 金沢地区中学校長会研修会, 西田幾多郎記念哲学館
- 浅見洋, 西田哲学と教育現場, 2004年7月31日, 石川県学校経営研修会, 西田幾多郎記念哲学館
- 浅見洋, 老人の心, 2004年8月10日, いしかわ長寿大学石川中央校, 石川県老人健康センター寿康苑
- 浅見洋, 西田幾多郎とキリスト教の対話, 2004年8月21日, 第24回夏期哲学講座開講講演, 西田幾多郎記念哲学館
- 浅見洋, 西田哲学から教育実践を考える, 2004年8月25日, 第46回石川県公立小中学校教育事務研究

大会, 石川県立看護大学講堂
浅見洋, 老いてますます・ふるさとの思想家たち,
2004年9月10日, いしかわ長寿大学能登北部校,
能登空港石川県生涯学習センター

谷本宗生(助手)

<論文>

「大学アーカイブズの役割と活動」『金沢大学資料館
だより』第23号, 2004年1月, 2~4頁.

「金沢大学50年史編纂の回顧と検証～前身校史・大
学創設史を中心に～」(江森一郎と共著)『金沢大学
教育学部紀要 教育科学編』第53号, 2004年2月,
161~173頁.

<書評>

「中野実著『大学史編纂と大学アーカイブズ』」『東京
大学史紀要』第22号, 2004年3月, 47~51頁.

<報告集>

「学徒動員・学徒出陣に関する東京大学史料室の
調査」(小川智瑞恵・八木晴花と共同)『東京大学史
紀要』第22号, 2004年3月, 25~46頁.

<校閲>

「東京大学旧職員インタビュー 内田祥三談話速記
録(四)」(中野実・藤井恵介・角田真弓と共同)『東
京大学史紀要』第22号, 2004年3月, 53~89頁.

<発表>

「大学アーカイブズの役割と活動」平成15年度金沢大
学資料館公開講演会, 2003年10月.

「戦後の新制大学の成立と発展」創価大学教育学部特
別講義, 2003年11月.

「大学史編纂の課題～戦後の新制私立大学成立史～」
第40回全国大学史資料協議会東日本部会研究会
(東洋大学), 2004年3月.

「故中野実の大学史における活動について」日本教育
史学会(謙堂文庫), 2004年3月.

比較教育社会学コース

金子元久(教授)

<分担執筆>

“Japan’s Higher Education: The Past, Its Legacies and
the Future,” P. Altbach & T. Umakoshi eds. Past
and Future of Asian Higher Education: Baltimore:
Johns Hopkins University Press, 2004.

「国立大学法人化の射程」, 江原武一編『大学の管理
運営改革』, 東信堂, 2004.

「初等教育の発展課題—日本の経験と発展途上国へ

の視点」, 米村明夫編『世界の教育開発』, 明石書
店, 2003, pp.27-41.

<論文>

「高等教育の地殻変動と大学の戦略的経営」, 『高等
教育研究紀要』19. (2004年3月), pp.87-100.

「日独の大学改革—政府・大学関係を中心に」, 『ドイ
ツ研究』日本ドイツ学会(2004年)37・38, pp.28-
32.

「高等教育における政府の役割」, 広島大学高等教育
研究開発センター編『大学運営の構造改革—第31
回(2003年度)研究員集会の記録』(高等教育研究叢
書80), 2004年7月, pp.93-101.

「大学の未来像—アメリカ・モデルへの収斂?」,
『IDE—現代の高等教育』462(2004年8月), pp.60-
65.

「高等教育の地殻変動と大学の選択」, 『IDE—現代
の高等教育』459(2004年4-5月), pp.5-10.

「大学間連携—市場化と競争の中で」, 『IDE—現代
の高等教育』455(2003年12月), pp.5-11.

「評価主義的陥弊: 模倣市場化と大学評価」, 『教育
与経済』74(2003年第4期), 2003年10-12月, pp.1-
8.

「市場化と国立大学—当面日本高等教育改革」, 『復旦
教育』, 2003年第1期, 第1巻第1号, pp.42-47.

「教育発展的日本模式」, 『教育与経済』2003年第3期,
pp.9-14.

「特集: 新生国立大学—生まれてはみたけれど」,
『カレッジマネーメント』128(2004年9-10月), pp.
5-7

<報告書>

金子元久編著『個別大学情報の内容・形態に関する
国際比較』, 東京大学大学総合教育研究センター,
2003年8月5日

金子元久編『日英大学のベンチマーキング』東京大学
大学総合教育研究センター, 2003年11月 日
日英共同研究プロジェクト「新時代の大学管理運営:
東京大学班報告」, 2003年9月30日. 56ページ.

<国際会議提出論文>

Kaneko, Motohisa, Yamamoto, Kiyoshi and Omori,
Fujio, On the Edge: Securing a Sustainable Future
for Higher - National Study, Japan. Paris: OECD.
Jan. 2004. 45 pages.

“Japan’s Incorporated National Universities - Design,
Reality and Prospects,” International Lecture Series,
Korean Educational Development Institute, Seoul,

Korea. (19 November 2004).

“Education and Training in Japan—Limits, Issues and Prospects for the 21st Century—,” Paper Prepared for 7th Anniversary International Seminar on Linkage between Higher Education and Labor Market, Korean Research Institute for Vocational Education and Training (Seoul, November 17th through 18th, 2004)

“Transforming the Japanese Mode—Educational Strategy for Japan of the 21st Century,” Paper Prepared for International Forum on Education Development, Beijing (23–25 August, 2004).

苅谷剛彦(教授)

<著書>

『封印される不平等』(橘木俊詔編, 齊藤貴男, 佐藤俊樹との対談)東洋経済新報社 2004. 7. 29

『創造的コミュニティのデザイン 教育と文化の公共性(講座 新しい自治体の設計5)』(編著)有斐閣 2004. 1. 30

『アメリカ研究入門 第3版』五十嵐武士・油井大三郎編(6章「教育」を担当)東京大学出版会 2003.10.21

<報告書>

「地方から見た教育改革—X県における「学習指導要領」実施過程に関する研究—」(プロジェクトC2)『基礎学力育成システムの再構築 中間レビュー』21世紀COEプログラム 東京大学基礎学力研究開発センター pp.115-129 2004. 5. 1

「グローバルな知識社会における基礎学力育成システムの評価 —大学就職部調査報告—」(プロジェクトC3)『基礎学力育成システムの再構築 中間レビュー』21世紀COEプログラム 東京大学基礎学力研究開発センター pp.131-146 2004. 5. 1

<論文>

「社会階層と国家とメリトクラシー」『メリトクラシー規範の比較教育社会学』(科学研究費補助金基盤研究(B)(1)課題番号13571009:研究代表者, 耳塚寛明)pp.45-56 2003.12.18

「『機会の平等』思想のアメリカの特徴と教育の拡大<研究ノート>」『高等教育研究紀要 第19号 高等教育の展望と課題』高等教育研究所 pp.50-61 2004. 3. 31

「解説「教育改革の幻想」」『じゃん 27』横浜市教育文化研究所 pp.30-32 2004.秋季

「小中学校教員調査 教育改革は学校を混乱させただけだった」(「特集 さらば「ゆとり教育」」)『週刊エコノミスト』毎日新聞社 pp.73-75 2004. 8. 24

「数合わせの「三位一体」改革は義務教育の不平等を拡大する」『週刊エコノミスト』毎日新聞社 pp.66-69 2004. 9. 21

<書評>

「鍋島祥郎著『ハイスクールウォーズII 見えざる階層的不平等』」『部落解放2004/538号』2004. 8. 10

「鄭 暎恵著『<民が代>斉唱 アイデンティティ・国民国家・ジェンダー』」『朝日新聞』2003.10. 5

「仲正昌樹著『「不自由」論「何でも自己決定」の限界』」『朝日新聞』2003.10.19

「朝日新聞「食」取材班著『あした何を食べますか? 検証・満腹ニッポン』」『朝日新聞』2003.11.23

「小玉重夫著『シティズンシップの教育思想』」『朝日新聞』2004. 1. 4

「土井隆義著『<非行少年>の消滅 個性神話と少年犯罪』」『朝日新聞』2004. 2. 8

「市川力著『英語を子どもに教えるな』」『朝日新聞』2004. 4. 4

「マーシャル・フレディ著『マーティン・ルーサー・キング』」『朝日新聞』2004. 4. 18

「永嶺繁敏著『<読書国民>の誕生 明治30年代の活字メディアと読書文化』」『朝日新聞』2004. 5. 23

「渡辺靖著『アフター・アメリカ ポストニアンの軌跡とく文化の政治学>』」『朝日新聞』2004. 6. 27

「玄田有史・曲沼美恵著『ニート フリーターでもなく失業者でもなく』」『朝日新聞』2004. 9. 12

<新聞紙上での論考>

「教育政策選ぶ時代に」『日本経済新聞』2003.11. 9

「深刻な状況政策対応を(高3意識調査)」『日本経済新聞』2004. 1. 24

「新学力観の教育 結果出ず(全国高校学力テスト文科省分析)」『読売新聞』2004. 1. 24

「シンポ「義務教育 どう変える —地方分権の流れの中で—」」『朝日新聞』2004. 9. 30

「「大人の世界への扉」北杜夫著『どくとるマンボウ航海記』」『毎日新聞』2004. 8. 25

<座談会>

「座談会「何のために学ぶのか」—なぜ子供たちは勉強しなくなったのか—」(最首悟, 中西茂との対談)『駿台フォーラム 第22号』駿台教育研究所 pp.一~二二 2004. 7. 1

白石 さや(教授)

<論文・著書>

「世界の子どもとマンガ・アニメ」『小児保健研究』
第63巻 第2号 社団法人 日本小児保健協会 178-
181 2004. 3. 20

「マンガ—20世紀の叙事詩」『詩マガジン』No.114 竹
林館 8-12 2004. 8. 20

<コラム>

「グローバリゼーションと文化」(シンポジウム パネ
リスト)『インターカルチュラル 2 日本国際文
化学会年報』アカデミア出版会9-55 2004. 5. 20

「ドラえもんがもたらした、たくさんのもの。」『ほ
くドラえもん』09 小学館 9 2004. 7. 5

<報告・発表等>

「韓国における日本のマンガ・アニメ」日韓文化交
流基金主催 韓国大学生訪日研修講師 2003.10. 1

「世界の子どもとマンガ・アニメ」(パネリスト) 日
本小児保健学会の公開シンポジウム(鹿児島市民
文化ホール) 2003.11.13

「日本の大衆文化とイメージ・アライアンス」韓国
延世大学 ゲストスピーカーとして講演 2004. 3.
19

「TV Literacy and the Niche Consumer Communities
of Globalizing Late 20th Century Asia」(パネリス
ト, 座長) 2004. 6. 30

「Media Literacy and Community Formation: The
Creation, Use and Impact of New Information
Technologies」(パネリスト) Asian Studies Associa-
tion of Australia 第15回大会(於 キャンベラ)
2004. 7

「コミックにおける文化資源の発掘生成：インドネ
シア他の事例から」『文化資源の生成と利用』研究
会(代表 山下晋司) 2004. 7. 17

What is Democracy? (ディスカッサント) Asia
Leadership Fellow Program Weekend Retreat, (於
Lawson Higashi-Fuji Guest House, Shizuoka Pre-
fecture) 2004. 9. 26

<その他>

京都大学東南アジア研究所学外研究協力者

矢野 眞和(教授)

<執筆分担著書>

「人生の社会設計とコミュニティー」苅谷剛彦編『創
造的コミュニティーのデザイン』有斐閣 2004. 1

<論文>

「グランドデザイン以前の財政」『IDE 現代の高等教
育』2004. 1

「高等教育における市場・経営・政策」『高等教育研
究紀要』第19号 2004. 3

「大学的治権：理念和資金的関係」『教育与経済』第1
期 2004. 3

“Can Japanese families change their lifestyle” in Jean
-Pierre (eds.) Work In The Global Economy, ILO
2004.10

<雑誌論文>

「大学を変える—桐蔭横浜大学の挑戦」『カレッジマ
ネジメント』2004. 3

「大学を変える—北海道武蔵女子短期大学の挑戦」
『カレッジマネジメント』2004. 5

「大学を変える—高崎経済大学の挑戦」『カレッジマ
ネジメント』2004. 7

「大学を変える—立命館アジア太平洋大学の挑戦」
『カレッジマネジメント』2004. 9

「大学を変える—東京理科大学の挑戦」『カレッジマ
ネジメント』2004.11

「新しいワークスタイルと労働時間のあり方」『電機
総研レポート』第299号 2004.11

<学会発表・その他>

「大学教育と卒業後のキャリア」日本教育社会学会第
56回大会課題研究報告 2004. 9

「21世紀の教育—社会経済システムの転換」国際交流
基金京都支部シンポジウム「未来の教育」報告
2004. 6

「財政基盤の確立—インプットからの政策デザイン」
大学人会議42回セミナー報告 2004. 9

「企業内プロフェッショナルと教育問題」(インタビュー)
「Works」No.64 ワークス研究所 2004. 6

広田 照幸(助教授)

<単著>

『思考のフロンティア 教育』岩波書店, 2004年5月
25日, 110頁.

<論文>

「軍隊の世界」安田常雄他編『近代日本社会に生きる』
吉川弘文館, 2003年12月1日, 83~108頁.

「立身出世の夢と現実——変わりゆく青少年の進
路——」小風秀雄編『アジアの帝国国家』吉川弘文
館, 2004年4月10日, 128~157頁.

<書評>

望田幸男編『近代ドイツ＝資格社会の展開』(名古屋大学出版会, 2003年)

『歴史学研究』第784号, 青木書店, 57～59頁.

菊池城司『近代日本の教育機会と社会階層』(東京大学出版会, 2003年)

『日本歴史』第669号, 119～121頁.

竹内洋『教養主義の終焉』(中央公論新社, 2003年)

『IDE 現代の教育』第456号, 2001年4月, 68～69頁.

<その他>

「少年事件は『教育が生み出した問題』なのか?」『教育評論』第681号, 2004年1月1日, 28～39頁.

「日本の家族としつけ」『月刊高校教育』第34巻第5号(2004年4月号), 2004年4月1日, 学事出版, 14～18頁.

(講演記録)「思春期の青少年をどういうまなざしでみていけばよいのか」内閣府政策統括官監修『青少年の育成を考える』ぎょうせい, 2004年3月31日, 270～274頁.

(講演記録)「近代日本の知と教養の重層性——士族・入試競争・教養主義——」『第8回夏期教育セミナー講演会「近代日本の知と教養の重層性」講演記録』旧制高等学校記念館友の会発行, 2004年3月31日, 4～22頁.

(シンポジウム記録)『「教育改革」のゆくえを問う』『ねぞす』第33号, 2004年4月22日, 神奈川県高等学校教育会館教育研究所, 6～31頁.

(インタビュー)「変わる『地域』と子育て」『母の友』第611号, 2004年4月1日, 福音館書店, 36～37頁.

恒吉 僚子(助教授)

<分担執筆, 学術論文>

「境界を越えた人々—グローバル化する社会の自分さがし」宮島喬・島藺進編『現代日本人の生のゆくえ—自律とつながり』藤原書店, 2003, 396-428ページ.

“The New Japanese Educational Reforms and the Achievement ‘Crisis’ Debate.” *Educational Policy*, Vol. 18, No.2, May, 2004, pp.364-394.

“The ‘New’ Foreigners and the Social Reconstruction of Difference: The Cultural Diversification of Japanese Education.” *Comparative Education*, Vol.40, No.1, February 2004, pp.55-81.

「育児観の国際比較」『小児科臨床』(増刊号 6月「子

どもの心のケア—温かく育むために」)57巻, 2004, pp.1315-1320.

<報告書>

「教育におけるアメリカ・西欧モデルと文化的ジレンマ—日本とマレーシアの選択」(特定領域B(2)10201206, 「アジア太平洋の文化変容における米国の位置と役割, 代表 瀧田佳子」, (彩流社出版予定), 2003年.

“Internationalization Strategies in Japan: Study Abroad Programs Using English and the Dilemmas of an Asian Nation” (「短期留学制度の多国間比較研究—日本語教育のグローバル・スタンダードの模索—基盤B2 13571047, 近藤安月子」), 2004年.

“A Japanese Vision of 21st Century Abilities: The Integrated Period, Basics, and the New Reforms”及び「本報告書の趣旨」, *Rethinking Japanese Education*, 基礎学力研究開発センター, 2004年, 7-32ページ.

「ローカル依存型共生イメージを分析する—川崎市の事例から」『ニューカマーの子どもたちに対する教育支援の研究』(科学研究費基盤C2, 14510263, 志水宏吉), 2004年, 27-34ページ.

<学会発表>

2003年12月 基礎学力研究開発センター国際シンポジウム. 運営, 司会.

2004年3月 “A Japanese Vision of 21st Century Abilities: The Integrated Period, Basics, and the New Reforms,” session on What Has Become of the Japanese Educational Model? Studies of Three Recent Educational Reforms (presenter and organizer) Association of Asian Studies.

2004年5月 異文化間教育学会, 「移民と文化変容—教育戦略を手がかりに」シンポジウム, 指定討論者.

2004年6月 “The Cooperative School, Japanese Style.” “Cooperation and Collaboration: Diversity of Practice, Cultural Contexts, and Creative Innovations.” Conference by the National Institute of Education, Nanyang University, Singapore. June, 2004.

2004年10月 「授業研究に対する教師の認識—アクションリサーチの効果と授業研究の満足度規定要因に注目して」秋田喜代美・恒吉同僚子・村瀬公胤・杉澤武俊, 第46回日本心理学会, 富山大学.

<その他>

2003年「国際理解教育」「多文化教育・多言語教育」
高橋勝他編『教育キーワード 137』時事通信社。

西 島 央(助手)

<論文等>

- ・「誰がクラシックコンサートに行くのか—東京・新潟・鹿児島のコナート会場におけるアンケート調査をもとに—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第43巻, 57-76頁, 2003年。
- ・「第1章 音楽室の光景: 設備・楽器・備品から見る音楽授業 第2節 誠之小学校」第5章 記憶からたどる儀式の中の音楽とその機能」研究代表者: 本多佐保美, 平成13~15年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)(1)研究成果報告書『音楽教育史研究における制度・教師・学習者の関係性の探求』, 16-18頁(第1章第2節), 74-78頁(第5章), (第1章第2節は勝谷祥子との共著), 2004年。
- ・「第3章 教育課程編成」第7章 宿題・家庭学習指導と土曜日の指導」『第3回学習指導基本調査報告書』ベネッセ未来教育センター, 43-58頁(第3章), 87-97頁(第7章), 2003年。
- ・「第1章 『日本の歌』架空説?」『モノグラフ高校生 vol.69 高校生からみた「日本」—ナショナルなものへの感覚』ベネッセ未来教育センター, 11-16頁, 2003年。
- ・「1. “ホントの音” ってどんな音?」『モノグラフ高校生 vol.71 科学技術社会の中の高校生』ベネッセ未来教育センター, 3-6頁, 2004年。

<学会発表>

- ・「アイデンティティのよりどころとして歌はどのように消費されているのか?—高校生対象のアンケート調査の分析から—」日本音楽教育学会第34回大会 於神戸大学, 2003年10月18日。

大多和 直 樹(助手)

<論文>

大多和直樹 2004「テレビゲームをするのは「ひまなとき」」『電子メディアのある「日常」—ケータイ・ネット・ゲームと生徒指導』学事出版 119-132頁
大多和直樹 2004「バーチャル大学の市場参入と質保証—ホームページによる動向調査より」『高等教育におけるeラーニングのインパクト—日本・アメリカ・中国における事例研究』メディア教育開

発センター研究報告51 29-36頁

大多和直樹 2004「生徒文化と社会観」『青少年から成人期への移行についての追跡的研究 JELS 第1集 2003年基礎年次調査報告(児童・生徒質問紙調査)』お茶の水女子大学21世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達研究」1 25-34頁

両 角 亜希子(助手)

<論文等>

- 「私立大学における財務情報の開示—その意味と実態—」筑波大学大学研究センター『大学研究』第26号 2003年10月 135-153頁
- 「大学の教育コスト」民主教育協会『IDE 現代の高等教育』(特集: 問われる学費)2003年11月 454号 27-33頁
- 「知識社会における大学教育と職業—情報系人材の知識・スキル変化を題材として—」広島大学高等教育研究開発センター『大学論集』第34集 2004年3月 109-131頁(齋藤芳子・小林信一との共著)
- 「ガバナンス」東京大学大学総合教育研究センター『大総センターものぐらふ3 (日英大学のベンチマーキング—東大・オックスフォード大・シェフィールド大の詳細比較—)』2004年3月31日 15-32頁(金子元久との共著)
- 「産学連携」東京大学大学総合教育研究センター『大総センターものぐらふ3 (日英大学のベンチマーキング—東大・オックスフォード大・シェフィールド大の詳細比較—)』2004年3月31日 91-107頁
- 「マンチェスター大学の合併」民主教育協会『IDE 現代の高等教育』(特集: 産学交流と大学改革)2004年9月 463号 72-77頁

<翻訳>

アーヴァイン・ラブスレー「イギリスの大学における資源管理—エジンバラ大学を事例として—」国立学校財務センター研究部『高等教育財政・財務講演録集』第I集「国立大学の法人化と諸外国の改革」2004年1月 115-133頁

<学会発表>

「法人化以降—英国の経験から考える—」日本高等教育学会第7回大会(2004年7月24日 國學院大學) (金子元久, 阿曾沼明裕との共同発表)

教育心理学コース

渡部 洋(教授)

<論文>

張一平・石井秀宗・渡部 洋著, 「テストの採点法とその問題点」研究開発部, リサーチノート, RN-04-05 2004年5月

張一平・石井秀宗・渡部 洋著, 「確信度付与法による項目反応モデル」研究開発部, リサーチノート, RN-04-06 2004年5月

<学会発表>

石井秀宗・渡部 洋(報告),
“Bayesian Consideration of Test-Retest Reliability Coefficients” International Meeting of the Psychometric Society Asilomar Conference Grounds Pacific Grove, California, USA 2004年6月

張一平・渡部 洋(報告), 「確信度応答法による項目反応モデル」日本テスト学会第2回大会 2004年8月

張一平・渡部 洋(報告), 「テストの採点とその問題点」日本行動計量学会第32回大会 2004年9月

市川 伸一(教授)

<著書>

『学ぶ意欲とスキルを育てる—いま求められる学力向上策—』小学館, 2004

『学校心理士と学校心理学(講座 学校心理士—理論と実践—第1巻)』北大路書房, 2004, (松浦宏ら5名と共編, 第7章「教育心理学」を分担執筆)

『授業の知—学校と大学の教育改革—』有斐閣, 2004 (梶田正巳編, 第8章「科学知は授業実践とどう関わるか」を分担執筆)

『科学としての心理学—理論とは何か?なぜ必要か?どう構築するか?』培風館, 2004, (森正義彦編, 第2章「心理学理論の特徴とその生成・検証のプロセス」を分担執筆)

<学術論文>

「数学力診断テスト“COMPASS”の開発—その目的・構成と試作版の実施結果—」, 基礎学力育成システムの再構築(中間レビュー), 東京大学大学院教育学研究科 基礎学力研究開発センター, 2004, pp.21-48. (南風原朝和ら6名との共著)

「学力測定・学力向上に関する学校支援プロジェクト」, 基礎学力育成システムの再構築(中間レビュー), 東京大学大学院教育学研究科 基礎学力研究開発センター, 2004, pp.49-66. (瀬尾美樹子

ら4名との共著)

<一般雑誌論文>

「総合で追う『なりたい自分』と『なれる自分』を広げる」総合的学習を創る(明治図書), 2004, 4月号~9月号, 連載第1回~第6回

「学校制度の縦問題と横問題」教育ジャーナル(学研), 2004, 8月号, P.5.(巻頭言)

南風原 朝和(教授)

<分担執筆>

「検査法」高野陽太郎・岡隆(編著)『心理学研究法』有斐閣, 2004年2月

<学会発表>

「統計の「知」の広がり」と深まり」(シンポジウム『臨床の「知」・統計の「知」・教育の「知」』における話題提供)日本心理学会第68回大会, 2004年9月

「量的研究法の指導との関係で」(ワークショップ『質的研究の仕方:研究方法をどう指導するか?』における指定討論)日本心理学会第68回大会, 2004年9月

針生 悦子(助教授)

<論文>

「動作をあらわすことばの学習:子どもはどうやってその意味を推論するのか」『児童心理』No.799, pp113-119.

<学会発表>

A crosslinguistic comparison of noun and verb learning in Japanese and English. Paper presented at the 28th Boston University Conference on Language Development. Boston, U.S.A.

The role of argument structure and object familiarity in Japanese children's verb learning. Paper presented at the 28th Boston University Conference on Language Development. Boston, U.S.A.

「名詞学習は本当に動詞学習より容易か:日本語・英語・中国語における新奇名詞・動詞の学習」日本認知科学会第21回大会発表論文集, 24-25.

Cognitive and linguistic factors influencing young children's novel noun/verb learning. Paper presented at the Conference on Language, Culture and Mind: Integrating Perspectives and Methodologies in the Study of Language. University of Portsmouth, Portsmouth, UK.

Factors influencing the ability to map a novel verb to

a dynamic action event: Crosslinguistic comparisons of Japanese and Mandarin Chinese children. Paper presented at the 28th International Congress of Psychology (Invited Symposium 'Universal and language-specific influencing early verb learning'). Beijing, China.

What helps children to extract relational commonality for learning novel verbs?: Role of object similarity and familiarity. Paper presented at the 28th International Congress of Psychology (Invited Symposium 'Universal and language-specific influencing early verb learning'). Beijing, China.

<分担執筆>

The nature of word learning biases and their roles for lexical development: From a cross-linguistic perspective. In D.G. Hall and S. R. Waxman(Eds.), Weaving a lexicon. Cambridge, MA: MIT Press. pp411-444.

<翻訳>

Colman, Andrew W. 2004 「心理学辞典」(藤永保・仲真紀子 監訳)東京:丸善

<講演>

「子どもはどのようにして動詞の意味を推論するのか?」平成15年度国立国語研究所日本語教育短期研修(第4回)東京国際フォーラム

野村晴夫(助手)

<著書:分担執筆>

『臨床心理学の新しいかたち』下山晴彦(編)誠信書房 2004 担当章:第2章「ナラティブ・アプローチ」 pp.42-60

<論文>

「母親面接で語られた子ども,夫,自分」東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要 27 pp. 1-10 2004

<書評>

『セラピストの物語/物語のセラピスト』小森康永他(編著)精神療法 29(6) 金剛出版 pp.764-765 2003

<学会発表>

「自己語りにおける他者の位置:自己を映す・自己を紡ぐ・自己を捏ねる」日本発達心理学会第15回大会発表論文集 2004(ラウンドテーブル司会)

臨床心理学コース

亀口憲治(教授)

<著書・編著>

家族療法的カウンセリング 2003年11月 駿河台出版社

Ancis, J. R.(Ed.) Culturally responsive interventions. (分担)2004年1月 Brunner-Routledge.

心理臨床大事典(共編著)2004年4月 培風館

日本家族心理学会(編著)家族内コミュニケーション 2004年6月 金子書房

臨床心理面接技法3(編著)2004年7月 誠信書房

<論文>

小児がん治療中の子どもの家族ケア実践をめぐる検討 家族看護 第2巻, 140-146, 2004年2月

授業の「場」における予防カウンセリングの実践過程(共著) 東京大学大学院教育学研究科紀要 第43巻, 403-423, 2004年3月

授業を活用した予防カウンセリングの実践 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター年報 第6号, 51-53, 2004年3月

中等教育における学校支援・臨床支援の革新 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター年報 第6号, 66-67, 2004年3月

ほっとルーム(学校臨床総合教育研究センター分室)での臨床支援活動の6年間 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター年報 第6号, 69-70, 2004年3月

家族愛のイメージ 心理学ワールド, 第25号, 13-16, 2004年4月

<その他>

不登校・引きこもり問題の抜本的解決を求めて 2003年度日本教育心理学会主催 公開シンポジウム資料集, 2-7, 2003年10月

子育てを左右する夫婦関係 児童心理臨時増刊, 19-25, 2004年2月

日本の表現手段による心理的援助の模索 精神療法 第30巻, 93-95, 2004年2月

臨床家のためのこの1冊『Family Therapy』臨床心理学 第4巻, 561-564, 2004年7月

ニュージーランドでの出会い 東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要 第27集, 57-59, 2004年7月

家族療法 日本心理臨床学会報 第13号, 4, 2004年7月

<書評>

藤原勝紀著「からだ体験モードで学ぶカウンセリング」心理臨床学研究 第22巻, 94-95, 2004年4月
成田善弘著「セラピストのための面接技法」心理臨床学研究 第22巻, 320-322, 2004年9月

<報告書>

予防的カウンセリングとしての総合的心理教育(平成14~15年度科学研究費補助金基盤研究B2研究成果報告書, 2004年3月)

下山晴彦(教授)

<編著>

下山晴彦 2003『臨床心理学全書第4巻 臨床心理実習論』誠信書房 pp.407
下山晴彦 2004 臨床心理学の新しいかたち 誠信書房 pp.274

<訳書>

下山晴彦 2004『心理援助の専門職として働くために—臨床心理士・カウンセラー・PSWの実践テキスト—』金剛出版 pp.235(Becoming a helper 3rd edition M, S, Corey & G, Corey 1999 Brooks/Cole Publishing Companyの後半部分)
下山晴彦 2004『心理援助の専門職になるために—臨床心理士・カウンセラー・PSWの基本テキスト—』金剛出版 pp.276(Becoming a helper 3rd edition M, S, Corey & G, Corey 1999 Brooks/Cole Publishing Companyの前半部分)

<全書監修等>

大塚義孝・岡堂哲雄・東山紘久・下山晴彦 2003-2004『臨床心理学全書』全13巻監修 誠信書房
下山晴彦 シリーズ企画・編集 2004—刊行中『心理学の新しいかたち』シリーズ全12巻 誠信書房

<論文>

Haruhiko Shimoyama 2004 The Role of Science in Developing Clinical Psychology as A Profession: A Comparative Study on Clinical Psychology between Japan and Britain. The Bulletin of School of Education. University of Tokyo 43. pp.121-131

<報告書>

Haruhiko Shimoyama 2004 Some thoughts on the Comparison of the Development of Clinical Psychology Between the UK and Japan. World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2004 Abstract. pp.41
下山晴彦 2004 社会的専門活動としての臨床心理

学の発展について 東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要27 pp.60-61

下山晴彦 2004 書評:『摂食障害ハンドブック』(金剛出版刊) 臨床心理学4(5) pp.698-699

田中千穂子(教授)

<著書・単著>

「こころのバランスが上手にとれないあなたへ」 講談社 2004, 9. pp.233

<著書・分担執筆>

「食べることをめぐって(幼児期前期)—内的調整力をはぐくむこと—」 ライフスタイルの心理療法 創元社 2004, 2. pp.20-40

<監修>

汐見幸幸・田中千穂子監修・上田勢子訳 大月書店 2003,11~2004,10
10代のメンタルヘルス

1. 過食症 ポニー・グレイブス著
2. 拒食症 ポニー・グレイブス著
3. うつ病 ジュディス・ピーコック著
4. パニック障害 ナンシー・M・キャンベル著
5. 怒りのコントロール ジュディス・ピーコック著
6. 自殺 ジュディス・ピーコック著

<論文>

しつくと「こころの傷」 児童心理12月号 2003, 12. vol57. No18 pp.1-9
世代間伝達の功罪 教育と医学特集「母子愛着をめぐって」2004.5 No611 pp.13-23

<雑誌原稿>

ショートエッセイ「心理臨床の大きな岐路」東京大学心理教育相談室紀要27集 2004年8月 pp.62-63

<その他>

「自分と関わる・人と関わる」家庭科5月号 全国家庭科教育協会 2004, 5 pp.2-5
「子どもたちの気になること」第一生命 (取材原稿)
「すてっぷ」ベネッセ(取材原稿)みんなおおきなあれ 2004,10,1~9
「障害のある子と親の関係性を育む」(講演録)第22会神知研 2004, 8 研究発表大会報告集 1-4

学校教育開発学コース

佐藤 学(教授)

<著書>

“배움으로부터 도주하는 아이들—학력을 묻는다—”

孫于正・金美蘭訳 북코리아 韓国 2003年11月
136p. (『「学び」から逃走する子どもたち』『学力を
問い直す』(岩波ブックレット)の翻訳)

『習熟度別指導の何が問題か』岩波ブックレット

2004年1月 70p.

『教育の方法(改訂版)』放送教育振興会出版部 2004
年3月 154p.

<共編>

佐藤雅彰・佐藤学<編>『公立中学校の挑戦=授業
を変える・学校が変わる』ぎょうせい 2003年11
月大瀬敏昭編・佐藤学監修『学校を変える=浜之郷小
学校の五年間』小学館 2003年12月藤田英典・黒崎勲・片桐芳雄・佐藤学<編>『教育
学の最前線—教育学年報(10)』世織書房 2004年
3月

<分担執筆>

「ここに中学校の未来があり希望がある」(佐藤雅彰・
佐藤学編『公立中学校の挑戦—授業を変える・学
校が変わる』ぎょうせい 2003年11月 pp.11-28.)「学校の奇跡=始まりの永久革命」(大瀬敏昭・佐藤
学編『学校を変える—浜之郷小学校の5年間』小学
館 2003年12月 pp.11-23.)「教育改革を読む」(人文会編『人文科学のすすめ』人
文会 2003年12月 pp.62-71.)「コミュニティと教育改革」(荻谷剛彦・森田朗・大
西隆・植田和弘・神野直彦・大沢真理編『創造的
コミュニティのデザイン—教育と文化の公共空間』
有斐閣 2004年1月 pp.223-240.)「教育基本法成立の歴史的意味—戦後教育の象徴と
その表象」(藤田英典・黒崎勲・片桐芳雄・佐藤学
編『教育学の最前線：教育学年報10』世織書房
2004年3月 pp.57-85.)「フィンランドの教育」(藤田英典・黒崎勲・片桐芳
雄・佐藤学編『教育学の最前線：教育学年報10』世
織書房 2004年3月 2004年3月 pp.2-7.)「21世紀型中学校教育のビジョンと実践=探究す
る学びの共同体づくり」(福井大学教育地域科学部
附属中学校研究会編『中学校を創る—探究するコ
ミュニティへ』東洋館出版社 2004年6月 pp.i-v.)

<学術論文>

「科学する学びを促進する教育へ」(日本学術会議編
『学術の動向』2004年8月号 日本学術協力財団
pp.8-13.)

<雑誌論文>

「子どもへのまなざし=表象される現実と見失われ
る現実」(『アンジャリ』No.6, 親鸞仏教センター
2003年12月 pp.16-19.)「学力低下をめぐる政策と実践の迷走」(教育科学研
究会『教育』国土社 2004年6月号 pp.23-30.)「誌上講演・21世紀を生きる子どもたちにふさわし
い教育とは?—平等主義を貫くフィンランドの教
育に学ぶ」(『現代と保育』2004年7月号 ひとなる
書房 pp.85-103.)「子どもの想像力を育む—アート教育によるコミュ
ニティづくり」(講演記録 住宅総合研究財団『住・
まちづくりフォーラム・かわら版』ニューズレター
第16号 2004年9月 pp.4-9.)「教室から大義も目的も失われる」(『別冊世界・もし
も憲法9条が変えられてしまったら』岩波書店
2004年10月 pp.68-71.)

<書評・その他>

「教育と学びの公共世界—政策哲学とその思想」(『公
共的良識人』第147号 京都フォーラム事務局
2004年2月1日)「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(1)学校改革
の伝統と現在—郡山市金透小学校」(『総合教育技
術』小学館 2004年5月 pp.78-82.)「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(2)ともに学
ぶ授業の創造=郡山市金透小学校(2)」(『総合教
育技術』小学館 2004年6月 pp.96-100.)「学びの質確保へ共同を」(『山陰中央新報』2004年6
月29日)「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(3)学びの共
同体づくりの中学校の挑戦—富士市岳陽中学校の
偉業(1)」(『総合教育技術』小学館 2004年7月
pp.92-96.)「学力問題にどう対応するか—教育実践の課題」(『教
育評論』アドバンテージサーバー 2004年7月 pp.
10-13.)「水準維持は国の責任(争点を聞く・教育)」(『朝日新
聞』(広島版) 2004年7月4日)「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(4)授業の改
革から学校の改革へ—富士市岳陽中学校の偉業
(2)」(『総合教育技術』小学館 2004年9月 pp.

94-98.)

<シンポジウム・講演>

Eternal Revolution of Beginning: School Reform through Constructing Learning Community, Paper presented at COE International Symposium, Educational Attainment and School Reform: Policy, Evaluation and Classroom Practice, Center for Research of Core Academic Competences, Graduate School of Education, The University of Tokyo, December 6, 2003.

Teachers' Autonomy at Risk under Decentralization and Deregulation: Issues for Educational Reform in Deference of Vulnerable Profession, Keynote Speech at the International Conference on Teaching and Teacher Education in the 21st Century, International Christian University, Tokyo, December 13, 2003.

「学びの公共世界へ——学校改革の哲学」(京都フォーラム「教育と学びの公共世界」 将来世代総合研究所主催 京都リーガロイヤルホテル 2003年12月21日)

「専門家教育とその方法」(東京大学医学教育国際協力研究センター・セミナー講演 2004年1月7日)

「学びから逃走する子どもたち」(シンポジウム「学力不振と子どもの心」京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター主催 京大会館 2004年2月14日)

「幼児教育の公共政策とその課題」(講演と対談 佐藤学+柴崎正行 日本保育学会第57回大会 兵庫教育大学・神戸親和女子大学 2004年5月15日)

「公的基準の再定義によるカリキュラム改革へ——ポスト学力論争における政策と実践」(日本カリキュラム学会第15回大会・公開シンポジウム「日本のカリキュラムをどう創り出していくか——学習指導要領の基準性を改めて問い直す」愛知教育大学 2004年7月3日)

「グローバル化時代における学校改革——地方分権化と規制緩和への対応 (School Reform under Globalization: Responses to Decentralization and Deregulation)」(日本教育学会第63回大会・国際公開シンポジウム「21世紀における教育改革の展望と新しい教育的価値」北海学園大学 2004年8月26日)

「『育て』の音楽の本質を問い直す」(基調講演 全国大学音楽教育学会第20回大会 松島センチュリーホテル 2004年9月3日)

Toward Dialogic Practice through Mediated Activity: Theoretical Foundations for Constructing Learning Community, Invited Keynote Lecture, International Symposium on New Learning Challenges, Department of Education, Kansai University, September 11, 2004.

<対談・座談>

「瀬死の公教育再生のために」(佐藤学+斎藤貴男 斎藤貴男『人を殺せと言われれば殺すのか』太陽企画出版 2004年6月 pp.263-299. <『現代思想』2002年4月号の再録>)

<インタビュー>

「著者に聞く・教室の『静かな革命』は世界の潮流である」(『スミセイ』住友生命株式会社 2003年10月)
「現代における『アートの教育』の意義と可能性」(『月間・社会教育』2003年11月号 国土社 pp.14-25.)
「学びの共同体づくりで現場からの教育改革を」(『悠』2004年3月 ぎょうせい pp.48-51.)

「OECD 学力調査から習熟度別指導を問う」(『福祉労働』2004年3月 現代書館 pp.59-65.)

「学校改革・すべての場所に『学びの共同体』を」(重松清『教育とはなんだ』筑摩書房 2004年4月 pp.123-138.)

佐々木 正 人(教授)

<著書>

後藤武・佐々木正人・深沢直人『デザインの生態学』東京書籍 2004

<雑誌論文(査読付)>

佐々木正人・高橋綾・林浩司 対象を特定する行為について：卵の表面を割る過程の解析 生態心理学研究 2004 1(1) 85-90

林浩司・佐々木正人 ヴァイオリン演奏における身体運動協調の解析：力の制御としてのヴィブラートの創発 生態心理学研究 2004 1(1) 91-98

<その他>

「卵とレイアウト」季刊 d/sign 5 pp.32-34 2003

「冗長なデテール」季刊 d/sign 6 pp.26-27 2004

「視線の生態学」季刊 d/sign 7 pp.12-13 2004

「こころの風景」朝日新聞 2004年6月21日～23日夕刊

「段差, 付着物, 遊離物—赤ちゃんのアフォーダンス」2004年8月号 pp.16-19

対談 甲野義紀と「矛盾を使いこなす古の武術の智慧」 洋泉社 MOOK「古武術で目覚めるからだ」

2004

紹介 日本新発見「幼児は段差で育つ」ナショナル
ジオグラフィック日本版 2004年9月号 pp.23

金 森 修(教授)

<著書>

『自然主義の臨界』単著 勁草書房, 2004年6月,
pp.i-xvii + i-xvi, + pp.1-277.

『科学的思考の考古学』人文書院, 2004年8月, pp.1-372.

<分担執筆論文>

「PVS患者の生と死」 桑子敏雄編『いのちの倫理学』,
コロナ社, 2004年10月1日, 第5章, pp.97-118.

<論文>

「摂食障害という文化」『思想』no.958, 2004年2月,
pp.100-128.

“Cultural Morphology of Eating Disorders”『医史学』,
大韓医史学会誌, Korean Journal of Medical History,
vol.13, no.1, June 2004, pp.94-118.

<参考論文・エッセイ等>

「生命にとって技術とは何か」(対談: 金森 修+松
原洋子)『現代思想』vol.31, no.13, 2003年11月,
pp.26-43

著書を語る『ベルクソン 人は過去の奴隷なのだろう
か』『書標』2003年11月号, 2003年11月5日,
pp.2-3.

「PVS患者の生と死」, 「総合討論」『メディカルエシ
ックス』29, 第29回医学系大学倫理委員会連絡会議
記録, ホテルグランドパレス, 2003年7月開催,
2003年12月刊, pp.68-77, pp.86-99.

「日本における生命倫理学の成立と展開」討論参加
『生命科学・生命技術の進展に対応した理論と倫
理と科学技術社会論の開発研究』科学研究費平成
15年度研究成果報告書, 2004年3月, pp.1-37.

「待機の花」 最相葉月『青いバラ』新潮文庫, 解説,
2004年6月, pp.623-629.

「ES細胞研究と人間の尊厳」『人間会議』, 2004年夏
号, 2004年6月5日, pp.24-25.

「生命倫理 科学の足かせか」『朝日新聞』2004年9月
19日, 時流自論

<書評>

「独自の鮮やかさが光る」『週刊読書人』第2511号,
2003年11月7日

「2003年読書アンケート」『みすず』第513号, 2004
年2月1日, pp.62-63.

「調節機構の存在論」『週刊読書人』第2531号, 2004
年4月2日

「2004年上半期3冊」『週刊読書人』第2547号, 2004
年7月30日

「科学取り込む知的な音楽史」『日本経済新聞』2004
年9月19日

<学会発表・講演等>

“Topography of eating disorders” East Asian STS
Conference, Institute of History and Philology, Aca-
demia Sinica, Nankang, Taipei, Taiwan, 5 October
2003

「摂食障害論」 身体医文化論研究会, 慶應義塾大学,
2003年10月22日

「明治期における進化論受容の一形態」 学習院大学,
2003年11月29日

「自然主義と反自然主義について」(戸田山和久氏と
の対談) 池袋ジュンク堂, 2003年12月1日

“Portrait and Shadow of Liberal New Eugenics” 国
際シンポジウム『先端医療技術における政策形成』,
大阪大学文学部, 2003年12月13日

「遺伝的公共性の哲学」 第51回公共哲学京都フォー
ラム, リーガロイヤルホテル京都, 2003年12月21
日

“Beyond Therapy and Liberal New Eugenics” Fifth
Asian Bioethics Conference, Eubios Ethics Institute,
University of Tsukuba, 2004年2月14日

「遺伝子改造論の射程」 21世紀における生存科学と
してバイオエシックスの構築研究会, 銀座, 生存
科学研究所, 2004年2月27日

「場所の心」 玉川大学脳科学研究施設「生命観」部門
第15回研究会, 箱根湯本ホテルおかだ, 2004年3
月7日

「PVS患者の処遇問題」『科学文明において平等と
公正を実現する社会システムについての研究』第
5回研究会, 東京工業大学, 2004年4月5日

「摂食障害の文化論」 日仏会館2004年度日仏文化講
座, 日仏会館, 2004年6月18日

秋 田 喜代美(教授)

<著書・編著>

『子どもたちのコミュニケーションを育てる: 対話
が生まれる授業づくり・学校づくり』教育開発研
究所 pp.246. (「対話を培う授業のデザイン」pp.12-
18. 「国際比較からみるコミュニケーション構造」
pp.100-105. 「同僚性と校内研修」pp.200-205.) 2004

年9月

<著書・分担執筆>

- 「熟練教師の知」梶田正巳(編)『授業の知：学校と大学の教育革新』pp.181-198. 有斐閣 2004年2月
- 「リテラシーの発達」波多野誼余夫・大浦容子・大島純(編)『学習科学』放送大学教育振興会 pp.34-48. 2004年3月
- 「未来をひらくために」小田豊・森真理(編)『教育原理』北大路書房 pp.142-160. 2004年4月
- 「学業不振への対応」『講座学校心理学 第4巻 小中学校』北大路書房 pp.2-13. 2004年4月
- 「探究する「学校文化」の形成を支えるもの」福井大学教育地域科学部附属中学校教育研究会(著)『中学校を創る 探究するコミュニティへ』東洋館出版社 pp.180-186. 2004年6月
- 「文化をつなぐもの：言葉で表現する力」無藤隆・麻生武(編)『教育心理』北大路書房 pp.79-90 2004年7月
- 「理論的意義を書く」無藤隆・やまだようこ他(編)『ワードマップ質的心理学』新曜社 pp.220-226. 2004年9月

<学術論文>

- 「中学校入学後の学習習慣の形成過程：基礎学力を支援する学校・家庭環境の検討」東京大学大学院教育学研究科紀要, 43, 205-234.(村瀬公胤・市川洋子との共著)2004年3月
- 「教育の場における記録(インスクリプション)への問い：その展開と現在の課題」藤田英典他(編)『教育学年報10巻 教育学の最前線』世織書房 pp.439-455. 2004年3月
- ‘Japanese Kindergarten Teachers’ Belief on Intellectual and Social Development.’ International Journal of Early Childhood Education, (Vol.10 No.1, pp.29-41 Ashida, H, KADOTA, R., SUZUKI, M. AKITA, K., ODA, Y., NOGUCHI, T.)2004年9月.

<雑誌論文>

- 「「可能性」と「創造性」を培う：イタリア レッジョ・エミリア市の取り組みから」『幼児と保育』49(9), 72-73. 2003年10月
- 「子どもと読書：「今の子どもは本を読まない」を考える」『青少年問題』50(1), 10-15. 2003年11月
- 「感性を引き出す授業」『教育展望』50(5), 24-29. 2004年6月
- 「子どもの発達と本」『発達』(特集「子どもと本の出会い」編集企画担当)99, 2-7 2004年7月

「創造性を培う授業」『子どもと授業』53, 2-5. 2004年7月

<雑誌連載>

- 「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(6)新たなリテラシーの時代に」日本教育, 317, 24-25. 2003年10月
- 「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(7)遊びや学びの「場」を作る」日本教育, 318, 26-27. 2003年11月
- 「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(8)リテラシーの芽生えを培う」日本教育, 319, 26-27. 2003年12月
- 「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(9)「見えない」教育における専門性」日本教育, 320, 32-33. 2004年1月
- 「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(10)地域の人々とのふれあいと市民性の育成」日本教育, 321, 26-27. 2004年2月
- 「ままごとコーナーに反映される文化」『週刊教育プロ』33(36), 24. 2003年10月
- 「脳科学は幼児教育に貢献するか」『週刊教育プロ』33(40), 25. 2003年11月
- 「園長にもとめられるもの」『週刊教育プロ』33(45), 29. 2003年12月
- 「協働的な遊びとプロジェクト型活動」『週刊教育プロ』34(2), 45. 2004年1月
- 「保育における記録システムの再検討」『週刊教育プロ』34(6), 31. 2004年2月
- 「友達から仲間へと社会力を培う」『週刊教育プロ』34(10), 31. 2004年3月
- 「家庭教育手帳の活用を」『週刊教育プロ』34(14), 27. 2004年4月
- 「道具と出会う園の暮らし」『週刊教育プロ』34(18), 31. 2004年5月
- 「身体の発達と社会の発展」『週刊教育プロ』34(22), 26. 2004年6月
- 「発達への見取りが現れている園内環境」『週刊教育プロ』34(26), 27. 2004年7月
- 「試し工夫できる保育環境」『週刊教育プロ』34(30), 29. 2004年8月
- 「考える力は「立ち止まる」保育から生まれる」『週刊教育プロ』34(34), 30. 2004年9月

<書評>

「岸裕司「地域暮らし」宣言—学校はコミュニティアート」『教職研修』, 379, 142. 2004年1月

「高浦勝義「絶対評価とルーブリックの理論と実際」
日本図書新聞 5月29日付け 6面 2004年 5月
「教師たちへの忘れられない贈りもの—大瀬敏昭「輝
け！いのちの授業」を読む」『本の窓』27(6), 82-83.
2004年 6月

<国内学会発表>

「ブックスタートプロジェクトにおける絵本との出
会いに関する親の意識(5)18ヶ月時点における実
態；(6)18ヶ月時の読み聞かせ行動を予測する 4
ヶ月時の要因の探索」(横山真貴子との共同)日本
乳幼児教育学会学会発表論文集, 48-51. 2003年
11月

「共感を育てる幼稚園教師の役割」日本乳幼児教育学
会第13回大会発表論文集, 25. 2003年11月

「ブックスタート協力家庭の母子相互作用(5)子ど
もの注意中断の発達的变化の検討；(6)母と子をつ
なぐ媒介手段としての指さしの発達的变化」『ブッ
クスタートプロジェクトにおける絵本との出会い
に関する親の意識(7)4ヶ月, 18ヶ月, 36ヶ月時
点での実態比較」(横山真貴子・森田祥子・菅井洋
子との共同)日本発達心理学会学会発表論文集
2004年 3月

「保育者の「知的発達」に対する実践的イメージの検
討：ビデオによる多声的方法を用いて」日本保育
学会第57回大会発表論文集, 260-261. (秋田喜代
美・芦田宏・門田理世・鈴木正敏・小田豊・野口
隆子)2004年 5月

「保育の質と文化」大会準備委員会企画シンポジウム
2「日本の保育はどこへ向かうのか——東洋と西
洋の対話を通じて——」話題提供者, 日本保育学
会第57回大会発表論文集, 92-93, 2004年 5月

「養成校と保育現場の共生は保育者の質の低下を支
えることができるか」日本保育学会シンポジウム
指定討論者, 日本保育学会第57回大会発表論文
S44-S45. 2004年 5月

「学ぶ意欲を支える学校文化」教育心理学会公開シン
ポジウム資料集, 3-6. 2004年 8月

「他者との出会い 教育のフィールド：出会いを記
録する」日本質的心理学会第1回大会アブストラ
クト集 22-23. 2004年 9月

「教師の成長と談話」日本教師教育学会シンポジウム
発表要旨集録, 90-91. 2004年 9月

<国際学会発表>

‘The Challenge of Educational Reform and Teacher’
Professional Development in Japanese Early

Schooling: Making Connections for Building Com-
munities of Learning.’ Paper presented in Bildung
uber die lebenszeit. International Kongress an der
Universitat Zurich. Switzerland: Zurich. 2004
March

‘An Analysis of “Image of Good Preschool Teachers”
Held by Japanese Preschool Teachers’

Paper presented in AERA Symposium San Diego.:
USA. 2004, April.

‘Teachers Professional Development: Lesson Research
for Making Children’s Learning Visible.’ Paper Pre-
sented in International Association for the Study of
Cooperation in Education at Singapore 2004, June.

<新聞>

「心に寄り添う保育1 始まりという混乱の時期」
『日本教育新聞』, 2004年 3月26日付

「心に寄り添う保育2 しみ込み型文化の裏表」『日
本教育新聞』, 2004年 4月 2日付

「心に寄り添う保育3 心の声を聴き取る」『日本教
育新聞』, 2004年 4月 9日付

「心に寄り添う保育4 行動から可能性を読みとる
力」『日本教育新聞』, 2004年 4月16日付

「対談 オーサービジットを語る」『朝日新聞 Be Jun-
ior』, 2004. 5. 22.

<報告書>

「社会力を培う幼稚園」東京都私立幼稚園研修会『子
どもの社会力を育てる』平成13-15年度教育研究委
員会報告書 pp.27-29. 2004年 3月

浅井 幸子(助手)

<学会発表>

「1930年代における野村芳兵衛の綴方教育」日本教育
学会第63回大会, 2004年 8月27日.

生涯教育計画コース

佐藤 一子(教授)

<著書・編著>

・佐藤一子編『生涯学習がつくる公共空間』柏書房
2003年12月 pp.285.

・佐藤一子編『NPOの教育力—生涯学習と市民的公
共性—』東京大学出版会 2004年 6月 pp.224

・佐藤一子他刊行委員会監修・第3巻責任編集, 日
本社会教育学会50周年記念講座『現代社会教育の
理論』全三巻 東洋館出版社, 2004年 9月

<論文>

- ・「教育方針」(第2条)『法律時報』臨時増刊号(教育法学会編)2004年4月 pp.84-87
- ・「子どもが育つ地域社会と中小業者」『中小工業研究』第79号 中小商工業研究所 2004年4月 pp.11-19
- ・「あらためて学習文化活動の協同性と公共性を問う」『月刊社会教育』No.586国土社 2004年8月号 pp.4-12
- ・「『学習の組織化』と社会教育研究の課題」日本社会教育学会50周年記念講座『講座現代社会教育の理論』(第3巻 成人の学習と生涯学習の組織化)編集・分担執筆 東洋館出版社 2004年9月 pp.9-25

<その他>

- ・「学校の変容と子どもの自己決定」日本子どもを守る会『子ども白書』草土文化 2003年11月 pp.31-34
- ・「教育・学校」(鈴木眞理と共)『現代用語の基礎知識』(2004)自由国民社 2003年11月 pp.913-925
- ・「いま、学校で社会性は育てられるか」『児童心理』2004年2月号 金子書房 pp.22-27

<学会報告>

- ・「地域再生・地域自治活性化におけるNPOの学習機能」(櫻井常矢と共)日本社会教育学会第51回研究大会 2004年9月

三 浦 逸 雄(教授)

<シンポジウム, 講演, その他>

- 「これからの図書館情報学研究と教育」(日本図書館情報学会創立50周年記念シンポジウム記録)『日本図書館情報学会誌』Vol.49, No.4, Dec. 2003. pp.177-183.
- 「大学図書館における学習・教育支援サービス」『平成15年度大学図書館職員講習会テキスト』2003年11月 pp.100-104.
- 「新しい学習・教育環境における図書館サービス—Teaching Libraryを中心に」(日本図書館協会図書館教育部会研究集会基調講演)『会報』2004.
- 「大学図書館による教育支援サービス」『平成16年度公立図書館等職員専門研修要旨』(静岡県立中央図書館) 2004年7月, pp.1-7.
- 「大学図書館の教育・学習支援サービス」『平成15年度大学図書館職員長期研修講義要綱』2004年7月 pp.134-137.

小 川 正 人(教授)

<著書・編著, 分担執筆>

- ・『合併自治体の教育デザイン』(編著/ぎょうせい 2003年12月)全190頁
- ・『校長・教頭のための最新教育改革ポイント整理』(編集/教育開発研究所 2003年12月)全218頁
- ・『解説 教育六法』平成16年度版(編修/三省堂 2004年2月)全1154頁
- ・「地教行法」(坂田仰・星野豊編著『学校教育の基本法令』学事出版2004年4月所収)82頁~89頁
- ・「教育への市民参加と自治体教育行政改革」(荻谷剛彦編著『創造的コミュニテイのデザイン』有斐閣 2004年1月 所収)103頁~125頁

<学会誌, 紀要, 報告書等>

- ・「教育行政における『分権改革』の現段階と課題—市町村教育委員会の可能性と教育政策過程研究の課題—」, 「まとめ:分権改革下の自治体教育政策—市町村教育行政の可能性と改革課題—」(共同研究『分権改革下の自治体教育政策—市町村教育行政の可能性と改革課題—』東京大学大学院教育学研究科教育行政学研究室 2004年3月)9頁~18頁, 183頁~196頁

<雑誌論文, その他>

- ・「『素人』教育委員会と教育長の役割分担の明確化を—『素人』教育委員会再考とそれに伴う制度改革の必要性—」(『教育展望』第50巻第8号 2004年9月)12頁~19頁
- ・「教育行財政制度のあり方をめぐる論議と実証的検証の必要」(『教職研修』385号 2004年9月号 教育開発研究所)11頁~13頁
- ・「自治体の学校改革戦略と保護者・地域の関係を点検し直す契機に」(『文部科学時報』1538号 2004年5月号 ぎょうせい)18頁~19頁
- ・「座談会:“教育経営新時代”の学校・教師・管理職」(『教職研修 2004 情報版』教育開発研究所 2004年4月)20頁~48頁
- ・「鶴ヶ島市教育行政調査 市民参画・協働とボトムアップ型の教育政策づくり」(『つるがしまの教育』110号 2003年10月号 鶴ヶ島市教育委員会)2頁~3頁
- ・解説「全国知事会・国庫負担金の改革案決定—『数字合わせ』と多数決に疑問」(『日本教育新聞』2004年8月27日号)
- ・「地方制度改革下の教育委員会制度改革の行方(下)」(『悠』第20巻第10号 2003年10月号 ぎょうせい)

- ・「教育政策決定過程の変容と教育行財政改革(上)」(『悠』第20巻第11号 2003年11月号 ぎょうせい)
- ・「教育政策決定過程の変容と教育行財政改革(下)」(『悠』第20巻第12号 2003年12月号 ぎょうせい)
- ・「少人数学級の動向と義務標準法改正の課題(上)」(『悠』第21巻第1号 2004年1月号 ぎょうせい)
- ・「少人数学級の動向と義務標準法改正の課題(中)」(『悠』第21巻第2号 2004年2月号 ぎょうせい)
- ・「少人数学級の動向と義務標準法改正の課題(下)」(『悠』第21巻第3号 2004年3月号 ぎょうせい)
- ・「教員評価を考える(上)」(『悠』第21巻第4号 2004年4月号 ぎょうせい)
- ・「教員評価を考える(中)」(『悠』第21巻第5号 2004年5月号 ぎょうせい)
- ・「教員評価を考える(下)」(『悠』第21巻第6号 2004年6月号 ぎょうせい)
- ・「教育委員会制度の改廃論議と改革課題(上)」(『悠』第21巻第7号 2004年7月号 ぎょうせい)
- ・「教育委員会制度の改廃論議と改革課題(中)」(『悠』第21巻第8号 2004年8月号 ぎょうせい)
- ・「教育委員会制度の改廃論議と改革課題(下)」(『悠』第21巻第9号 2004年9月号 ぎょうせい)

根本 彰(教授)

<著書>

『続・情報基盤としての図書館』勁草書房 2004年2月 210p.

<分担執筆>

『図書館法』坂田仰・星野豊編著『学校教育の基本法令』学事出版 2004年4月 pp.198-203.

<翻訳>

アリスティア・ブラック, デーブ・マディマン『コミュニティのための図書館』(三浦太郎と共訳)東京大学出版会 2004年8月 252p.

<論文>

「日本図書館情報学会20年略史(1952年-1972年)」(三浦太郎と共著)『日本図書館情報学会創立50周年記念誌』日本図書館情報学会 2003年10月 pp.1-20.

「図書館, 知の大海に乗り出すためのツール」『草思』2004年3月 pp.6-12.

「交流の場図書館: 日本での可能性」『国際交流』103 2004年4月 pp.65-70.

「貸出サービス論批判: 1970年代以降の公立図書館をどう評価するか」『図書館界』vol.56, no.3, September 2004. pp.161-168.

「訳者解説」アリスティア・ブラック, デーブ・マディマン『コミュニティのための図書館』(三浦太郎と共訳)東京大学出版会 2004年8月 pp.215-231.

<その他>

「石山洋氏インタビュー」「岩猿敏生氏インタビュー」『日本図書館情報学会創立50周年記念誌』日本図書館情報学会 2003年10月 pp.31-45.

「図書館情報学と大学図書館」『図書館の窓』42巻6号 2003年12月 pp.1-2.

「石原都政が着々と進める文化切り捨て“残酷物語”」『サンデー毎日』2004年3月14日号 pp.38-40(取材協力)

「調査報告を読んで」『公立図書館貸出実態調査2003報告書』日本図書館協会・日本書籍出版協会 2004年3月 pp.57-58.

「日本図書館情報学会の50年とLIPERの課題」『図書館雑誌』vol.98, no.5, 2004年5月 pp.282-284.

「知のダイナミズムと教育改革」『学内広報(東京大学)』No.1295 2004年7月28日 p.36.

<書評>

鶴岡市立朝陽第一小学校編著「こうすれば子どもが育つ学校が変わる」『山形新聞』11月9日付け 2003.11

<講演・シンポジウム>

「地域資料サービスのリストラクチャーリング: 地方分権, IT, 図書館経営」平成14年度(2002年度)全国公共図書館研究集会報告書 2003年9月 pp.3-10.

「図書館サービスを支える知的基盤: 教育, 研修, そして資格認定を考える」第45回北海道図書館大会記録(概要)2003年9月 pp.1-11. (<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/taikai.pdf>)

「変わりゆく図書館情報学専門職の資格認定——専門団体はどう取り組んでいるか——」LIPER—情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究(科学研究費)研究班 2003年9月 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/liper/record/record030927.html>)

「美術館・博物館, 文書館における情報専門職の開発と養成——現状と課題——」LIPER—情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究(科学研究費)研究班 2003年11月 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/liper/record/record031115.html>)

「日本図書館情報学会創立50周年記念シンポジウム:

これからの図書館情報学研究と教育』『日本図書館情報学会誌』vol.49, no.4 2003年12月 pp.172-194.

鈴木 眞 理(助教授)

<著書>

『ボランティア活動と集団—生涯学習・社会教育論的探求』学文社2004年2月

<共編著書>

『社会教育計画の基礎』(清國祐二と共編著)学文社2004年8月

<論文>

「社会教育と自己点検・自己評価・説明責任」伊藤俊夫編『変化する時代の社会教育』2004年3月 pp.113-116.

<その他>

「公民館の自己点検と自己評価の意義と必要性」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『社会教育事業の検証・評価に関する調査研究経過報告書』2004年3月, pp.5-8.

「ミュージアム・マネージメント研修(国立科学博物館主催)受講者の追跡調査の概況」『博物館の機能及びその効果的な運営の在り方に関する実証的研究』(科学研究費補助金(特別研究促進費)研究成果報告書・研究代表者・斎藤靖二)2004年3月, pp.93-96.

「ボランティアの参加促進」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『図書館及び図書館司書の実態に関する調査研究報告書』2004年3月 pp.48-50.

「図書館協議会」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『図書館及び図書館司書の実態に関する調査研究報告書』2004年3月 pp.66-75.

「社会教育関係職員と研修」社会教育計画研究会『博物館職員の研修に関する調査研究報告書—国立科学博物館[ミュージアム・マネージメント研修]受講者の追跡調査』2004年7月 pp.1-4.

「国立科学博物館『ミュージアム・マネージメント研修』の意義と課題」社会教育計画研究会『博物館職員の研修に関する調査研究報告書—国立科学博物館[ミュージアム・マネージメント研修]受講者の追跡調査』2004年7月 pp.68-70.

勝野 正 章(助教授)

<著書 共著・分担執筆>

「イギリスの自律的学校経営」河野和清編『地方分権

下における自律的学校経営の構築に関する総合的研究』(多賀出版, 2004年2月)pp.41~55

『「いい先生」はだれが決めるの?いま生きる ILO/ユネスコ勧告』(小島優生, 新堰義昭, 山田功と共著)(つなん出版, 2004年7月)pp.84~91

<論文 学会紀要>

「現代イギリスにおける教育政策と教育政策研究」『日本教育政策学会年報』第11号, 2004年6月, pp.72~78

<論文 その他>

「カブールの学校を訪ねて」『人権と部落問題』No.170, 2003年11月, pp.78~81

「連載学校を訪れる 私たちが教育を受けることがピース(平和)につながる—アフガニスタン・カブールの学校」『高校のひろば』vol.50, 2003年12月, pp.68~73

「教員評価・学校評価を問う」『人間と教育』第41号, 2004年3月, pp.24~31

「株式会社, NPO 法人による学校設置・経営をどう考えるか—学校の「公の性質」について—」『住民と自治』, 2004年5月号, pp.18~21

「連載学校を訪れる 親子食事会の縦割り班にこだわった生徒たち—埼玉県小川高等学校定時制」『高校のひろば』vol.52 2004年6月, pp.56~61

「開かれた学びあい教員評価を乗り越える」『生活教育』2004年9月号, pp.52~59

<学会発表>

「国際教育法規からみた教員評価・指導力不足教員政策」日本教育法学会第34回定期大会(神戸大学), 2004年5月

「『公立学校改革』と教員評価・学校評価問題」日本教育学会・中部教育学会 中部地区教育公開シンポジウム(名古屋大学教育学部), 2004年7月10日

三 浦 太 郎(助手)

<翻訳書>

アリストテア・ブラックほか著『コミュニティのための図書館』(根本彰氏と共訳)東京大学出版会, 2004.8, 252p.

<学会発表>

“American Library Policy during the Allied Occupation of Japan, 1945-1952: An Overview.” paper presented in Library History Round Table, the 128th American Library Association Annual Conference, Orlando, Florida, USA, 2004.6.27.

<その他>

「図書分類法(日本の)」「歴史学事典」第11巻 宗教と学問, 弘文堂, 2004. 2, pp.502-504.

身体教育学コース

武藤芳照(教授)

<編著書>

『変形性股関節症の運動・生活ガイド(第3版)』(杉岡洋一らと共編), 日本医事新報社, 2004. 2

『中高年者のスポーツの留意事項』今日の整形外科治療指針(第五版): pp.126-127(分担執筆), 医学書院, 2004. 3

『スポーツ競技者の診療で考慮すべきこと』今日の整形外科治療指針(第五版): pp.92-93(分担執筆), 医学書院, 2004. 3

<論文>

「水泳コーチの月経に関する意識の現状」(藤井亜希子らと共著), 水と健康医学研究会誌 Vol.6, No.1; 33-38, 2003

「水泳救護大会における医学的問題と救護症例に関する考察」(渡部厚一らと共著), 水と健康医学研究会誌 Vol.6, No.1; 13-18, 2003

「「運動」をどうとらえるか」治療学 Vol.37, No.12: 62-63, 2003

「大腿骨頸部骨折予防のための転倒防止リハビリテーション」(黒柳律雄と共著), Monthly Book Medical Rehabilitation No.36; 55-62, 2003

「高齢者の転倒・骨折の予防医学—生活習慣病への整形外科医の関わり—」(太田美穂らと共著), 日本整形外科スポーツ医学会雑誌; vol.23, No.2, 147-157, 2003

「Nationwide survey of hip fractures in Japan」(H. Hagino, T. Nakamura, K. Sakamoto, K. Yamamoto, N. Endo, S. Mori, Y. Mutoh, Y. Yamamoto, A. Harada, K. Kushida, T. Tanizawa, T. Hotokebuchi) J. Orthop Sci. Vol.9, No.1: 1-5, 2004

「マスターズ水泳選手の障害の実態」(金岡恒治らと共著), 臨床スポーツ医学: Vol.21, No.3; pp.269-273, 2004

「移動動作と下肢機能」(小松泰喜らと共著), PT ジャーナル第38巻第6号; 491-499, 2004

「中高年女性を対象とした温泉入浴と生活・運動指導による総合的健康教育—3ヶ月間と6ヶ月間介入の無作為化比較試験—」(上岡洋晴らと共著), 日本温泉気候物理医学会雑誌第67巻第4号; 202-

214, 2004

<報告書等>

「ジュニアテニスプレーヤーの肩関節・股関節可動域および上肢・下肢周径について—障害予防の観点から—」(高橋亮輔らと共著), 身体教育医学研究第5巻1号; 25-29, 2004

「スポーツ指導者論考—名伯楽の科学—」(石井宏らと共著), 身体教育医学研究第5巻1号; 37-44, 2004

<解説・レポート>

「熱中症」, 小学校体育ジャーナル39号: 8-9, 2002

「質疑応答Q & A 競技期間中使用可能な薬剤」(鈴木紅と共著), 日本医事新報第4156号; 99-100, 2003

「転倒を防止する入院中・在宅での服装・履物・杖」(田中尚喜と共著), ナース専科 Vol.24, No.1; 46-49, 2003

「スポーツドクターレポート「第3回大学生・高校生のためのスポーツ医学セミナー」」(長谷川亜弓らと共著), 臨床スポーツ医学: vol.21, No.2, pp.185-190, 2004

<学会発表>

「Fall Prevention Program for the Elderly in Japan」(Okuizumi H, Kuroyanagi R, Ueno K, Tanaka N, Komatsu T, Kaminai T, Mutoh Y, Ohta M, Hasegawa A, Park H, Soyano A), The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, 2003年11月 東京

「Study of Mobility and Factors of Daily Living of People with a Fear of Falling」(H.Kamioka S. Okada, Y. Mutoh, K. Nakanishi, A. Soyano, T. Komatsu, T. Kaminai, H. Okuizumi), The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, 2003年11月 東京

「Efficacy of a simple clinical gait test to identify low bone mass and fall risk in community-dwelling elderly women」(H. Park, T. Komatsu, S. Park, T. Kaminai, Y. Mutoh), Japanese-Korean Joint Conference on Rehabilitation Medicine 2004, 2004年4月 京都

「The Effects of Complex Exercise Program on Fracture Risk Factors in Community-Dwelling Elderly Women」(H. Park, S. Park, Y. Mutoh), American College of Sports Medicine 50th Annual Meeting, 2004年5月 San Francisco

「整形外科とスポーツ医学：現状と今後の課題「予防と教育の立場から」, 第77回日本整形外科学会学術集会, 2004年5月 神戸市

<学術講演等>

「高齢者の転倒・骨折・寝たきり予防—「転倒予防教室」の理論と実際—, 健康スポーツ医学再研修会, 2003年10月 尼崎市

「転ばぬ先の杖と知恵」, 厚生労働科学研究推進事業研究成果発表会, 2003年12月 大阪市

「高齢者の転倒予防教室の理論と実際」, 第8回城東整形外科医会学術講演会, 2004年1月 東京

「高齢者の転倒・骨折予防への医学的対応」, 兵庫県整形外科医会学術講演会, 2004年1月 神戸市

「高齢者の転倒・骨折予防の理論と実際」, 第173回東京通信病院学術講演会, 2004年3月 東京

「高齢者の転倒・骨折・寝たきり予防のための運動・生活指導」, 静岡県保険医協会東部支部公開講演会, 2004年4月 三島市

「高齢者の転倒・骨折予防の実践と教育」, 福井県臨床整形外科医会学術講演会, 2004年5月 福井市

「高齢者の転倒・骨折の病態とその予防」, 第4回日本整形外科看護研究会学術集会, 2004年6月 横浜市

「転倒防止のためのリハビリテーション」, 第5回順天堂大学整形外科フォーラム, 2004年6月 東京

「高齢者の転倒・骨折リスク評価とその予防のための運動処方」, 群馬疼痛性疾患研究会, 2004年9月 前橋市

衛藤 隆(教授)

<著書・分担執筆>

「社会小児科学」五十嵐 隆編『小児科学』改訂第9版, 文光堂, pp.947-963, 2004

『学校医の手引き』日本医師会地域医療第二課編(編集委員), 日本医師会, pp.25-33, 63-66, 70-71, 75-77, 2004

『改訂版 ゆうゆう子育て—0歳から3歳までの遊びの世界』ゆうゆう子育て研究会編著, 社団法人全国保健センター連合会, 2004

「各種関連機関との連携 学校」「不登校—学校保健の立場から」小林陽之助編『子どもの心身症ガイドブック』中央法規出版, pp.52-55, pp.183-187, 2004

<論文>

「心の健康と健康的な生活習慣の形成」『初等教育資

料 平成16年2月号』(No.778), 8-13, 2004

<総説>

「不定愁訴増加の背景」『小児内科』35(12): 1912-1915, 2003

「乳児健診で黄疸がみられた場合の対応は?」『小児内科』36(8): 1230-1231, 2004

<報告書>

平成15年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)分担研究『小児心身症対策の推進に関する研究』(主任研究者: 小林陽之助)報告書: pp.279-493, 2004

平成15年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)『思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究』(主任研究者: 衛藤 隆)報告書: pp.543-636, 2004

平成15年度厚生労働科学研究(政策科学推進事業)分担研究『母子保健分野の個人情報保護に関する研究』『保健事業における個人情報の保護及び利活用に関する研究』(主任研究者: 吉田勝美)報告書: pp.12-14, 2004

平成15年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)研究協力『母子健康手帳のさらなる活用に関する研究Ⅱ』『学校における「健康手帳」に関する研究』『乳幼児期から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究』(主任研究者: 小林正子)報告書: pp.332-341, pp.342-363, 2004

<学会発表>

Takashi Eto: Networking. International Workshop on Health Promoting Schools in Taiwan, December 17, 2003, Taipei International Convention Center, Taipei, Taiwan.

Takashi Eto, Motoko Sakamoto, Masaki Watanabe, Zentaro Yamagata, Toshihiro Iwanaga, and Narumi Tahara: The School Health Framework and Strategies in Tokyo Metropolitan Government. The 18th World Conference on Health Promotion and Health Education, April 26-30, 2004, Melbourne, Australia.

Masaki Watanabe, Takashi Eto, Motoko Sakamoto, Zentaro Yamagata, Toshihiro Iwanaga, and Narumi Tahara: The Trend of Health Problems among Students in Tokyo: Findings from the School Health Surveys in 1992, 1997, and 2003. The 18th World Conference on Health Promotion and Health

Education, April 26-30, 2004, Melbourne, Australia.

<講演>

「子どもの健康—こころとからだの最近の話題—」小田原小児科医会講演, 小田原市医師会館, 2003年10月20日

「生涯にわたり健康の保持増進をめざす疾病予防と保健管理の進め方—保健管理と健康教育の接近—」第53回全国学校保健研究大会課題別協議会, 第6課題講義, 青森市文化会館, 2003年11月7日(報告書, pp.64-67)

「子どもの事故予防から safety promotion へ」医学教育国際協力センター「センターセミナー」講演, 東京大学医学図書館333会議室, 2003年11月26日

「生涯にわたる健康づくり—生涯保健事業への手がかり—」東京都医師会地域医療委員会講演, 東京都医師会館, 2004年4月15日

「進みはじめた WHO ヘルスプロモーションスクール構想—各国の取り組み状況—」東京都教育委員会「都立学校における健康づくり推進委員会」講演, 東京都庁, 2004年7月5日

「心の健康と生活習慣—健康づくりへの展開を願って—」平成16年度全国養護教諭研究大会 第2部会(3)講師, 札幌コンベンションセンター, 2004年8月11日

<その他>

(座談会司会)「小児保健の今昔」日本小児保健協会50周年記念特別号—再発足後半世紀のあゆみ—, 小児保健研究, 63(増刊): 1-13, 2004

(寄稿)「編集と共に歩んだ17年」日本小児保健協会50周年記念特別号—再発足後半世紀のあゆみ—, 小児保健研究, 63(増刊): 121-122, 2004

(シンポジウム座長)「子どもの育つ良い環境づくりに向けて」第50回日本小児保健会学術集会プレコングレス・シンポジウムA, 鹿児島市民文化ホール, 2003年11月13日

(指導助言)課題別研究協議「第2課題 保健管理の進め方」平成15年度養護教諭中央研修会, 企画: 文部科学省, 実施: 独立行政法人教員研修センター, 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター, 2003年12月4日

(シンポジウム座長)シンポジウム「絵本と出会う」—母子保健における絵本の効果—, 健やか親子21平成16年度「親と子のいきいき学級セミナー」(東ブロック), ポールスター札幌, 2004年7月23日

(教養学部報記事)「人間の未来を築く教育学, その多様性と可能性」『教養学部報』第474号, 2004年5月6日

(年表作成)「日本小児保健協会小史(1983年より2003年迄)」(丸山東人と共著)小児保健研究, 63(増刊): 337-384, 2004

(寄稿)「現・国際交流委員長として」日本学校保健学会50年史, 105-106, 2004

山本 義春(教授)

<論文>

Yoshiuchi, K., K. S. Quigley, K. Ohashi, Y. Yamamoto, and B. H. Natelson. Use of time frequency analysis to investigate temporal patterns of cardiac autonomic response during head-up tilt in chronic fatigue syndrome. *Autonomic Neuroscience* 113: 55-62, 2004.

Amaral, L. A. N., D. J. B. Soares, L. R. daSilva, L. S. Lucena, M. Saito, H. Kumano, N. Aoyagi, and Y. Yamamoto. Power-law temporal auto-correlations in day-long records of human physical activity and their alterations with disease. *Europhysics Letters* 68: 448-454, 2004.

Ohashi, K., G. Bleijenberg, S. Van der Warf, J. Prins, L. A. N. Amaral, B. H. Natelson, and Y. Yamamoto. Decreased fractal correlation in diurnal physical activity in chronic fatigue syndrome. *Methods of Information in Medicine* 43: 26-29, 2004.

Ohashi, K., L. A. N. Amaral, B. H. Natelson, and Y. Yamamoto. Asymmetrical singularities in real-world signals. *Physical Review E* 68: 065204(R)-1-4, 2003.

Peckerman, A., J. J. LaManca, B. Qureishi, K. A. Dahl, R. Golfetti, Y. Yamamoto, and B. H. Natelson. Baroreceptor reflex and integrative stress responses in chronic fatigue syndrome. *Psychosomatic Medicine* 65: 889-895, 2003.

Yamamoto, Y., K. Kiyono, and Z. R. Struzik. Measurement, analysis, and interpretation of long-term heart rate variability. *Proceedings of 2004 SICE Annual Conference* pp.2598-2605, 2004.

Heinrichs, S., Z. R. Struzik, J. Hayano, and Y. Yamamoto. Probing temporal correlation in ventricular interbeat intervals during atrial fibrillation with local continuous DFA. *Proceedings of SPIE*

- 5467: 404-410, 2004.
- Kitajo, K., K. Yamanaka, D. Nozaki, L. M. Ward, and Y. Yamamoto. Behavioral stochastic resonance is associated with large-scale synchronization of human brain activity. *Proceedings of SPIE* 5467: 359-369, 2004.
- Struzik, Z. R., J. Hayano, S. Sakata, S. Kwak, and Y. Yamamoto. Evidence for the origins and breakdown of $1/f$ noise in heart rate. *Proceedings of SPIE* 5467: 283-289, 2004.
- Safonov, L. A., and Y. Yamamoto. Super-sensitive stochastic resonance in a small-dimensional excitable network. *Proceedings of SPIE* 5467: 131-138, 2004.
- 相馬りか, 山本義春. 生体におけるゆらぎの効用—確率共振の観点から—. ゆらぎの科学と技術—フラクチュオマティクス入門—. 山本光璋, 鷹野致和編. 東北大学出版会, 仙台, 2004, pp.199-212.
- 清野 健, 山本義春. 心拍ゆらぎ解析の最近の動向. ゆらぎの科学と 技術—フラクチュオマティクス入門—. 山本光璋, 鷹野致和編. 東北大学 出版会, 仙台, 2004, pp.71-90.
- 小久保奈緒美, 山本義春. EMA. ストレス疾患ナビゲーター. 久保木富房, 中村 純, 山脇成人編. メディカルレビュー社, 東京, 2004, pp.262-263.
- 郭 伸, 山本義春. 確率共振による神経疾患の新しい治療戦略. 治療. 86: 140-141, 2004.
- 小谷 潔, 高増 潔, Leonid Safonov, 山本義春. 複雑なヒトの 心臓血管/呼吸系ダイナミクスを再現するモデル. (社)計測自動制御学会, 第18回生体・生理工学シンポジウム論文集. pp.275-278, 2003.
- 大橋恭子, 山本義春. 身体活動長期時系列の解析と精神障害・心身症. (社)計測自動制御学会, 第18回生体・生理工学シンポジウム論文集. pp.265-268, 2003.
- 清野 健, 大橋恭子, 青柳直子, 山本義春. 長期心拍変動の解剖. (社)計測自動制御学会, 第18回生体・生理工学シンポジウム論文集. pp.159-162, 2003.
- <招待講演・シンポジウム講演>
- Yamamoto, Y. Noise-induced sensitization of human brain. *Symposium "Fluctuations, noise and variability in neural systems—their functional roles" at the Joint Meeting of the 27th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society and the 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry*. Osaka, Japan (September, 2004).
- Yamamoto, Y. Measurement, analysis, and interpretation of long-term heart rate variability. *Tutorial Lecture in Organized Session "Systems Analysis on Fluctuations of Biological Rhythm" at the SICE Annual Conference*. Sapporo (August, 2004).
- Yamamoto, Y. Use of externally added noise in sensitising baroreflex function in health and disease. *A Satellite Symposium of the 14th European Meeting on Hypertension*. Angers, France (June, 2004).
- Yamamoto, Y. Noise-induced sensitization of human brain. *IUBS-TAIB Symposium on Stochastic Events in Biological Systems*. Hayama, Japan (November, 2003).
- 山本義春. 生体長期ゆらぎに見られるスケール不変性. 第43回 日本ME学会大会オーガナイズド・セッション, 金沢, 2004年5月.
- 柴 若 光 昭(助教授)
- <その他>
- "A Survey on the Difference in Traffic Side" The 18th World Conference of Health Promotion and Education, p388, 2004
- "A History of Health Promoting Schools in Japan" (with Nanakida, F. et al.) The 18th World Conference of Health Promotion and Education, p.100, 2004
- 「各種危機管理マニュアルの分析」日本児童安全学会, 2004
- 平 野 裕 一(助教授)
- <著書>
- 金子公宥, 福永哲夫編著「バイオメカニクス～身体運動を科学する～」杏林書院, 東京, 2004.
- 11章1「打つ運動のメカニズム」pp.288-294
- 11章2「バットで打つ(野球)」pp.294-300
- 宮下充正監修, 山田ゆかり編「女性アスリート・コーチングブック」大月書店, 東京, 2004.
- 1章4「練習とトレーニング」pp.61-74
- <論文>
- 平野裕一, 上間 匠, 和田賢一, 渡辺昭夫: 圧力検出・加速度計測による前腕筋強化用具のジャイロ運動特性. 電気学会研究会, pp.7-10, 2004.
- Ishida, K. and Y.Hirano: Effects of non-throwing arm

on trunk and throwing arm movements in baseball pitching. *International Journal of Sport and Health Science*, 2: 119-128, 2004.

<総説>

平野裕一：スポーツ技術の指導 野球. *体育の科学*, 54(2): 118-121, 2004.

多賀 巖太郎(助教授)

<論文>

G. Taga, K. Asakawa, K. Hirasawa, Y. Konishi: Hemodynamic responses to visual stimulation in occipital and frontal cortex of newborn infants: a near infrared optical topography study, *Early Human Development* 75S, 203-210, 2003

<本>

G. Montagne, A. deRugy, M. Buekers, A. Durey, G. Taga, & M. Laurent: How time-to-contact is involved in the regulation of goal-directed locomotion, In H. Hecht & G. Savelsbergh Eds. *Time-to-Contact, Advances in Psychology series*, Amsterdam, North Holland, Elsevier, 475-491, 2004

<総説その他>

多賀巖太郎：乳児の脳機能計測, *神経心理学*, 20: 12-18, 2004

多賀巖太郎：脳科学を特定の教育方法の正当化に使う愚, *学校マネジメント*, 564: 7, 2004

多賀巖太郎：赤ちゃんの行動を観察する, *チャイルドヘルス* 7: 21-24, 2004

<学会発表・講演>

H. Watanabe, G. Taga, K. Kushiro, K. Asakawa: Infant motor patterns in multi-mobile conjugate reinforcement task, 44th Annual Meeting of the Psychonomic Society, Vancouver, Canada, 2003

G. Taga: Complex systems approach to motor, perceptual and cognitive development in early infancy, *International Conference on Infant Studies*, Chicago, USA, 2004 (invited)

G. Taga, K. Asakawa, H. Watanabe, K. Kushiro: Undifferentiated Auditory Response of the Occipital and Temporal Cortex in Sleeping Infants, *International Conference on Infant Studies*, Chicago, USA, 2004

H. Watanabe, G. Taga, K. Kushiro, K. Asakawa: Infant motor patterns and memory function in the conjugate reinforcement mobile, *International*

Conference on Infant Studies, Chicago, USA, 2004
G. Taga: Functional brain development in early infancy, *International Symposium on Research on Learning & Education based on Neuroimaging*, Tokyo, 2004 (invited)

多賀巖太郎：歩行生成の論理—非線形力学と発達—, 第25回臨床歩行分析研究会, 2003.11.2(招待)

多賀巖太郎：脳と身体の動的発達, 第13回日本上田法治療研究会学術集会, 2003.11.29(招待)

多賀巖太郎：新生児の行動と脳の複雑さ, 第48回日本未熟児新生児学会学術集会公開講座, 2003.11.30(招待)

多賀巖太郎・浅川佳代・渡辺はま・久代恵介：乳児期における大脳皮質の大域的及び局所的活動—睡眠・覚醒時の視聴覚応答の光トポグラフィ計測—, 第4回日本赤ちゃん学会, 京都, 2004.4.25

渡辺はま・多賀巖太郎・久代恵介・浅川佳代：乳児の自発運動パターンと記憶に関する発達の变化：モバイル課題を用いて, 第4回日本赤ちゃん学会, 京都, 2004.4.25

久代恵介・多賀巖太郎・渡辺はま・浅川佳代：乳児期の運動知覚における頭部・身体および重力座標系の関わり, 第4回日本赤ちゃん学会, 京都, 2004.4.25

保前文高・渡辺はま・中野珠実・浅川佳代・多賀巖太郎：睡眠時の乳児における音声言語刺激に対する皮質活動, 第9回認知神経科学会, 東京, 2004.7.11

多賀巖太郎：JST 異分野研究者交流促進事業ワークショップ「揺らぎと生命」, 滋賀, 2004.7.23(招待)

多賀巖太郎：脳と身体の初期発達, 日本認知科学会, 東京, 2004.7.30(招待)

渡辺はま・多賀巖太郎・久代恵介・浅川佳代：モバイル課題における乳児の四肢運動パターンと記憶, 日本認知科学会第21回大会, 滋賀, 2004.7.30

山中 健太郎(助手)

<論文>

Kudo K. Miyazaki M. Kimura T. Yamanaka K. Kadota H. Hirashima M. Nakajima Y. Nakazawa K. Ohtsuki T. Selective activation and deactivation of the human brain structures between speeded and precisely timed tapping responses to identical visual stimulus: an fMRI study. *NeuroImage*, 22(3): 1291-1301, 2004

<学会発表>

Kitajo K. Yamanaka K. Nozaki D. Ward LM. Yamamoto Y. Behavioral stochastic resonance is associated with large-scale synchronization of human brain activity. SPIE conference on Fluctuations and Noise, 2004.5.25-28, Maspalomas, Gran Canaria, Spain

Yamanaka K. Kawashima N. Kimura T. Nakazawa K. Yamamoto Y. Effects of transcranial magnetic stimulation to human left frontal cortex showing transient activities just before a Go or NoGo decision. Society for Neuroscience 33rd Annual Meeting, 2003. 11.8-12, New Orleans, Louisiana, USA

北城圭一(助手)

<論文>

K. Kitajo, K. Yamanaka, D. Nozaki, L. M. Ward and Y. Yamamoto, Behavioral stochastic resonance is associated with large-scale synchronization of human brain activity. Proceedings of SPIE 5467: 359-369, 2004.

<学会発表>

K. Kitajo, K. Yamanaka, D. Nozaki, L. M. Ward and Y. Yamamoto, Behavioral stochastic resonance is associated with large-scale synchronization of human brain activity.

Fluctuations and Noise 2004, Maspalomas, Gran Canaria, Spain, May 2004.

澤井和彦(助手)

<論文・論評・報告書>

澤井和彦「大学生のスポーツ活動と意識生活に関する調査研究」, 教育学部研究紀要, 第43巻別冊, pp.381-287, 2004年3月

<学会発表>

間野義之, 澤井和彦, 山谷拓志, 小倉俊行, 小坂伸吉「ワークショップ;日本のスポーツリーグのビジネスモデルを考える(その2)~収支構造から読み解く, リーグ経営の鍵~」日本スポーツ産業学会, 2004年7月, 小倉

学校臨床総合教育研究センター(教育研究創発機構)

角田真紀子(助手)

<論文>

II.グループワークの観点から見た予防カウンセリ

ング(分担執筆):授業の「場」における予防カウンセリングの実践過程 東京大学教育学研究科紀要 43 403-423 2004.3

<報告書>

グループワークを生かした予防カウンセリングの実践展開(分担執筆):総合的コラボレーションによる不登校・引きこもりの解決 日本教育心理学会主催公開シンポジウム資料集 18-23 2003.11

授業実践を振り返って—グループワークの観点からみた予防カウンセリング— 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター年報『ネットワーク』第6号 62-63 2004.3

2003年度こころの相談室「ほっと・ルーム」活動報告 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター年報『ネットワーク』第6号 71-73 2004.3

2003年度東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室活動報告 東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要 第27集 71-74 2004.7

<学会発表>

亀口憲治・鈴木一史・長谷川恵美子・角田真紀子 総合的コラボレーションによる不登校・引きこもりの解決 日本教育心理学会主催公開シンポジウム 2003.11

K. Kameguchi, R. Hayes, M. Tsunoda. Preventive Counseling Program in Classroom Setting(Poster Session) American Psychological Association 112th Annual Convention, Honolulu, Hawaii, USA. 2004.7

<その他雑誌原稿>

終わるといふこと 別れるといふこと 東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要 第27集 64-65 2004.7

21世紀 COE

濱中 淳子(研究拠点形成特任研究員)

<論文>

濱中淳子「学生の経済生活の変化」『IDE 現代の高等教育』民主教育協会 No.454 34-37頁 2003.11

濱中(万見)淳子「国立大学における科学研究費補助金の配分構造—大学間格差の実態—」『国立学校財務センター研究報告』第8号, 299-317頁 2003.12

濱中(万見)淳子「『マス段階』の工学系修士課程教育—学生の満足度と修学意欲にみる問題の特質—」『高

等教育研究』第7集, 177-199頁 2004.4

堀 健 志(研究拠点形成特任研究員)

<論文>

堀健志, 「『渡りの危機』を考察する——脱標準化社会の進路形成——」『教育』No.697, pp.114-121, 国土社, 2004年2月.

堀健志, 「学歴獲得競争からの離脱とインセンティブ認識」『メリトクラシー規範の比較教育社会学』(平成13年度~15年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)研究成果報告書), pp.45-56, 2003年12月.

<学会発表>

荻谷剛彦, 清水睦美, 堀健志, 「『分権化』時代の教育改革(1)——×県の教育課題と県教委——」, 第56回日本教育社会学会

犬 塚 美 輪(研究拠点形成特任研究員)

<論文>

清河幸子・犬塚美輪「相互説明による読解の個別指導 —対象レベル—メタレベルの分業による協同の指導場面への適用—」教育心理学研究, 2003年, 51巻第2号, pp218-229

橋本渉・犬塚美輪・村山航 「抽象的テーマと日常的文脈を結びつけた情報の提示が授業理解に及ぼす効果 —社会科の授業展開に関する比較研究—」日本教科教育学会誌, 2004年, 27巻2号, pp21-30

<学会発表>

INUZUKA, Miwa. Does discussion about others' essay facilitate writing? International Conference on Psychology, Beijing, 2004, August

INUZUKA, Miwa. The effect of working memory and monitoring skill on use of reading strategies. Second International Conference on Working Memory, Kyoto, 2004, August

犬塚美輪「作文指導における文章評価活動の効果」日本教育心理学会第45回総会, 大阪教育大学, 2003年

犬塚美輪「説明文読解における書きこみ方略の選択と実行—テキスト構造と学年による影響—」日本心理学会第67回大会, 東京大学, 2003年

高橋麻衣子・犬塚美輪「漢字学習困難者への文字の切り離し読み指導」日本教育心理学会第45回総会, 大阪教育大学, 2003年

<シンポジウム>

Shin'ichi Ichikawa and Miwa Inuzuka Development

of Componential Assessment of Mathematical Competence. COE International Symposium, Programme 2003 "Educational Attainment and School Reform: Policy, Evaluation and Classroom Practice", 2003, December.